3. 初級用教科書開発報告 —— 漢字

尾崎 久美子

はじめに

1989（平成 1）年秋から開発の始まった『初級用教科書・漢字』は、試用版第１版（ゼロックスコピー版、全 111ページ）が1990年 6月に完成し、7月からの 夏期日本語教育（Japanese Ⅰ~Ⅲ）において使用された。第２版は若干の訂正その他を加えたもので同年 9月に完成し、教養学部のコース（Intensive Japanese Ⅰ, Japanese Ⅰ~Ⅲ）で使用され現在に至っている。本報告では、尾崎が漢字教材の開発に当初から関わった者として、その作成の経過と教材の概要等を報告したい。本報告の構成は次の通りである。

Ⅰ　４００字の選択と配列の基本方針
Ⅱ　教科書・副教材の概要
Ⅲ　教室活動例と学生・教師の反応
Ⅳ　今後の問題点
Ⅴ　資料（教材例）

Ⅰ　４００字の選択と配列の基本方針

本学の初級では 400字をカバーすることになっているが、1989年11月28日～29日の日本語教育プログラムのリトリートで尾崎が「基本漢字」として487字[1]を提案、その時とその後の漢字教材開発担当者の会議で次のようなことが話し合われた。（漢字教材開発担当者は金井英雄先生と稲垣滋子先生と尾崎の３人であった。）

【基本方針】

○　400字を選ぶ際には、色々な資料や統計などにたよるばかりでなく、教師の目、教師の判断も大切にしたい。
○　都道府県名や人名（常用漢字以外のものも含む）も何らかの形で紹介したい。
○　400字の枠に入らない字も、ある程度振り仮名をつけて教材に入れたい。

○　尾崎が 487字を選ぶ際に参考にした６種の資料以外に参考にすべきものがある。

○　提示する順序　：　第１課から第１０課ぐらいまでは教科書の本文に出てくる語彙から漢字をひろい、単純な形のものから複雑なものへと配列する。つまり初級のはじめの学習者の負担を少なくするために、文法ドリルなどで習った語彙の漢字を中心にする。
が、それ以降は課ごとに部首や字形、意味のつながり等で漢字を選択する。

○　なるべく単純なものから複雑なものへと配列する（例えば「親」という漢字の部分である「見」という字が、「親」よりも後で習うことがないようにする）。

このような基本方針をもとに、尾崎が次のような提案を行なった。

【尾崎案（1990）】

課ごとの漢字の括り方：
・教科書（本文）の語彙の漢字
・意味でまとめる　①　品詞別
　　②　場面別
・形でまとめる　①　部首別
　　②　似ている形別

練習帳に盛り込む内容：
・読む練習
・書く練習（送り仮名の練習も含む）
・漢字の意味を問う
・漢字と漢字を組み合わせる練習
・ひとつの漢字から熟語を作る練習
・漢字クロスワードパズル、スケルトン
・漢字を使ったしりとり
・書道

教材中の囲み記事：
・漢字の知識　①　（漢字の文中での役割、音訓、送り仮名、筆順・書き方の原則、筆順・画数はなぜ大切か、など）
・漢字の知識　②　（漢字の歴史や字体の変遷の一部を紹介）

・部首の種類と意味
・場面別に漢語を紹介 （例えば 銀行・レストランなど）
・助数詞（本、枚、台、匹、冊、人など）
・字形の似ている漢字
・略字、くずし字など
・体の部分の名前（手、足、顔、目など）
・固有名詞（人名や場所の名前――県名・駅名など）
・既習漢字を使った難しい言葉の紹介（四字熟語など）
・ひとつの漢字を使った色々な言葉を紹介（例：電話、電車、電気、電線など）（そのあとで学生が自分で造語してみる）
・学生が街で見つけた漢字を書き入れる
・学生が自分の名前を漢字で書いてみる

以上の全てを網羅するのは紙面的にも時間的にも難しいので、この中から取捨選択して教材に盛り込むことになった。

Ⅱ　教科書・副教材の概要

【教科書の構成】

その結果完成した教科書は第０課から第３３課までの全３４課から成り、次のような構成となった。（詳しい漢字のリストは「Ⅴ　資料」の Ａ を参照のこと）

目　次
各課の内容
第　０　課　漢数字（一～十）
第　１　課　教科書（本文）で習った言葉の漢字
第　２　課　時間、年月日、曜日、漢数字（百以上）、金額を表す漢字
第　３　課　教科書（本文）で習った言葉の漢字＋動詞 ①
第　４　課　教科書（本文）で習った言葉の漢字
第　５　課　教科書（本文）で習った言葉の漢字＋形容詞・形容動詞 ①

第　６　課　教科書（本文）で習った言葉の漢字
第　７　課　教科書（本文）で習った言葉の漢字
第　８　課　教科書（本文）で習った言葉の漢字
第　９　課　場所を表す漢字 ①
第１０課　四角形（□）を使った漢字
第１１課　教科書（本文）で習った言葉の漢字
第１２課　部首 ①「にんべん」「てへん」
第１３課　部首 ②「しんにょう」「もんがまえ」
第１４課　部首 ③「うかんむり」「いとへん」
第１５課　部首 ④「したごころ」「かい」「おんなへん」
第１６課　体や動作に関係ある漢字
第１７課　形の紛らわしい漢字　「又」「夂」「夊」
第１８課　形の難しい漢字
第１９課　形の似ている漢字 ①
第２０課　形の似ている漢字 ②
第２１課　「月、火、水、木、金、土」を部首にした漢字
第２２課　「日」を部首にした漢字
第２３課　場所を表す漢字 ②
第２４課　場所を表す漢字 ③＋動詞 ②
第２５課　動詞 ③
第２６課　形容詞 ②
第２７課　助数詞＋身近な言葉の漢字
第２８課　大学生活でよく使う漢字
第２９課　専門分野を表す漢字
第３０課　レポートや論文などでよく使う漢字 ①
第３１課　レポートや論文などでよく使う漢字 ②
第３２課　レポートや論文などでよく使う漢字 ③
第３３課　レポートや論文などでよく使う漢字 ④
ひらがな・カタカナの字母
索引（字音）

基本方針にあったようにはじめのうちは教科書の本文と関連のある語彙を中心としている（第１～９、１１課）。それは前にも述べたように初級学習者の負担を減らすための考慮である。第１０課ぐらいからは、学習者が漢字の形に着目するようにする。それは同時に漢字を部分に分けて捉える練習にもなり、このあたりから「部首」という概念を導入する。（もちろんその前の段階から部首については少しずつ言及するとよい。）第１７課

では学生がよく間違える形「また」と「ふゆがしら」と「ぼくづくり（ぼくにょう）」を取り上げて、細かい点が漢字にとって決め手になりうるということを学んでもらう。第１９、２０課では形の似ている漢字のペアなどを示すことによって紛らわしい漢字を見分けられるようにする（例えば、「待・特」「知・和」「料・科」「午・牛」など）。第２３課からは品詞や場面による分類となっている。その中でも特に第２８課以降は学生として知っておくと便利な漢字（語彙）が選んであり抽象的な話題で使える言葉が紹介される。全体的に教材の初めの部分と比べて次第に語彙の抽象度が高くなるように配列されている。また、一番最後（ 400字目）の漢字を「漢」という字にしたのは、初級の終りを明確にし、「基本漢字」 の400字がここで全てカバーされたのだという到達感――登山で言うなら、頂上に着いた時の気持ちのようなもの――を、学生が感じてくれれば、という願いからである。

【各課の構成】

各課は次のような構成になっている。

① 課の扉
② 漢字表： 漢字、音訓、熟語（時々文例も）、筆順
③ 漢字表の余白：

① 課の扉にはその課で学ぶ漢字について日英両語で説明してある（英語は尾崎の日本語をレベッカ・コープラン先生が翻訳したもの）。
そのほか絵や図などを使ってその課の特徴を示した。（「Ｖ 資料」のＢ 参照）
また時間の関係で他の漢字辞典などから日本の地名、東京の地下鉄路線図やよくある姓などのコピーをそのまま扉に使ったものもある。(2)

② （漢字表は「Ｖ 資料」の Ｃ 参照のこと。）
漢字は、小学校の教科書体活字に倣って手書きのもので提示した。(3)（手書きは全て尾崎の手による。）漢字の提示を活字体でなく手書きにしたのは、学生の書く漢字の字体がなるべく標準に近いものとなるように配慮したためである。活字体をそのまま写すことにより、しばしば不自然な字や、間違った字を書いてしまうということがある。

例えば、 「北」の左側（偏）の部分
「食」の下の左の部分（２画で書く）
「入」の上の部分
「答」の上の部分（たけかんむりの形） など。

漢字の意味は載せていない。
音訓は小学校段階で学習させるのが適当と思われる音訓（文部省「音訓等調査研究協力者会議」昭和49年9月、50年8月）の中から、初級に適当なものを選んだ。（音はカタカナで、訓はひらがなで示した。）

但し、　「姉」　シ
　　「妹」　マイ
　　「茶」　サ

の３つの読み方は中学校段階の読みの中から付け足した。

また、　「私」　わたし
　　「達」　たち

は「常用漢字表」（昭和56年10月）には載っていない訓であるが、よく使われる読みであり、何冊かの辞典にその例が認められた[4]ので、ここに載せた。
熟語や文例は、初級の日本語に適当と思われるものを選んだ。読み方と意味は載せていない。（未習漢字のみ振り仮名をつけた。）
筆順は、標準的なものを載せた。[5]

③　漢字表の余白には筆順・書き方の原則（これは他の漢字辞典からのコピーを使用[6]）などの情報を載せた。また、似ている字形の既習漢字を並べたり、同じ部分を持つ既習漢字を並べたりすることにより、間違えやすい漢字に注意させるようにした。つまりこれは復習も兼ねている。

【副教材】

副教材には次のようなものがある。（「Ｖ　資料」　Ｅ、Ｆ　参照）

①　練習問題（第１～３３課）
②　読みの練習（全課そろっていない）

①　練習問題は「読む」と「書く」に分かれている。「読む」問題は単語レベルのもの、文レベルのもの、音読み・訓読みが混ざっている。問題は基本的にテキストに提示された言葉の中で、使用頻度が高く、初級でよく使われる語を中心とした。「書く」問題も同様に、単語、文、音訓が混ざっており、しかも送り仮名の練習もできるようになっている。これは授業中の練習として使用してもよいし、宿題や自習用としてもよい（但し、解答は付いていない）。１つの課の復習としてクイズなどを行う場合、この練習問題からだけ出題すると限定すると、学生にとっても勉強しやすい。

② 読みの練習はその課で習った漢字はもちろんのこと、それまでの課で習った漢字も同時に思い出させる復習も目的としている。基本的には２～３文の文章を読む練習だが、時々長い手紙文などもいれてある。まだ全課そろっておらず不完全である。

Ⅲ　教室活動例と学生・教師の反応

【教室活動例】

前述の教材の概要を見てもわかるように、テキストは漢字・音訓（の一部）・熟語・文例などが中心となっており、漢字や熟語の意味や、熟語の読み方などは一切書いてない。つまりそれらは教師が教室で示すか、学生が独自で調べるかのどちらかの方法をとらなければならないということである。このテキストは独習用ではなく、授業で教師の指導の下に使われることが前提となっているので、あえて全ての情報を盛り込まずに、教師や学生の活動の余地を残しておいた。言い換えれば、このテキストを毎回決まった方法で使うのではなく、漢字の授業が単調にならないように色々な教室活動ができるように考慮したということである。結局授業の運び方はその担当教師に委ねられる部分が大きいので、教師の力量が問われるところである。

次に参考までに尾崎の作成した「教師用マニュアル」（1990年 6月）の教室活動に該当する部分を全文そのまま載せる。

漢字の知識として、

- 日本語の表記には、ひらがな・カタカナ・漢字がある。（これに数字・ローマ字を含める場合もある。）また、縦書きと横書きがある。
- 漢字の読み方には、音読みと訓読みがある。また、並べ方によっては読み方が濁ったり変化したりすることがある。ある漢字をいつ音で読み、いつ訓で読み、いつ濁るか、いつ変化するかは場合による。
- 漢字の書き順には、ルールがある。（例外も含む。）また、くずした字などを判読する時など、書き順を知っておくと便利である。
- 送り仮名には、ルールがある。
- 画数を確認することも大切である。（例えば、読み方・部首が

わからない時に辞典をひくため、など。）

・部首についても適宜ふれるとよい。

・字体はなるべく標準に近いものを練習させるようにする。特に活字体をそのまま写すことにより、不自然な字や、間違った字を書かないように指導する。

例えば、　北、　食、　入、　答　　など。

・漢字の成り立ち、意味、字体上の注意や誤りやすい字などは適宜ふれるとよい。

・漢字の歴史、字体の変遷（甲骨文、金文、篆文、隷書、楷書、行書、草書など）や、六書（象形、指事、会意、形声、仮借、転注）などについては学生側に余裕があって、しかも漢字に特別興味があるような場合のみにとどめるべきである。（ただ、色々な字体などを気分転換のために見せるぐらいならよい。）

・漢字の辞書について説明する。

以上のようなことを少しずつ授業で話すとよい。

授業では、

・学生が受け身になりがちなので、なるべく学生側に意味や筆順を言わせたり、黒板やノートに書かせたりする。書いたものは教師が必ずチェックし、直す。

・発展練習として、

＊　フラッシュカードを学生に渡して説明させる。

＊　フラッシュカードを学生に選ばせて、それを使って文を作らせる。

＊　フラッシュカードを黒板にたてかけて並べ、教師が意味や読み方を言ってカードを取りに行かせる。（グループに分けて、競争させるとよい。）

＊　教室の外で色々な漢字をみつけて、それを写し、意味を調べて発表する。場所を指定して、１０とか１５とかの漢語を写して来るのもよい。（例えば、郵便局で、とか、銀行で、とか。）

＊　漢字を使って自分で新しい言葉を作ってみる。

＊　自分の名前を漢字で書いてみる。（これは漢字でない人の場合。）

＊　書道をする。（簡単にやりたい時は、筆ペンを使えばよい。）

などが考えられるが、この他にも色々な方法がある。

とにかく授業が単調になったり、学生が漢字を覚えることを苦痛に感じたりしないよう配慮したい。時には学生をほめたり（「字がきれいですね。」とか「ずいぶん早く書けましたね。」とか）、学生を安心させるために、「習った漢字を忘れることは当然のことで、日本人でも使わないと忘れてしまうので、繰り返して練習してほしい」などと言ってあげるとよい。

これはあくまでも「教師用マニュアル」であり、実際の授業ではこの通り行われた訳ではない。

【学生の反応】

以上のような教材と教室活動を行った結果、学生から次のような反応が得られた。これは1990年夏の Japanese Ⅱ~Ⅲ のコース半ばで行ったアンケートのコメント部分をまとめたものである。

	マイナス評価	プラス評価
授 業	時々早すぎる。もっと意味を英語で説明してほしい 部首とその意味を説明してほしい 書き方よりも読み方に重点を置いてほしい 習った漢字が他の授業時間にあまり使われないのは残念だ 習った漢字は忘れやすいのでもっと復習がほしい	役に立つ ちょうどよい おもしろい 漢字一つ一つの意味の説明はおもしろいし覚えるのに役立つ
教 材	漢字や語彙に意味をつけてほしい 語彙に読み方をつけてほしい 一課に出てくる漢字数が多い 一課に出てくる漢字数が少ない 一課に出てくる語彙数が少ない 大学構内や街で見かける言葉の	役に立つ ちょうどよい 筆順がかいてあるのがよい 一課に出てくる漢字数がちょうどよい

	ような実用的な例がほしい 習った漢字を使った読み物教材がほしい テキスト本文では習った漢字に振り仮名をつけないでほしい	
練習問題	もっと復習の部分がほしい もっと文を書きたい 解答をつけてほしい	自分で復習するのにとてもよい 役に立つ テストの準備に役に立つ ちょうどよい
テスト	多すぎる 少なすぎる	ちょうどよい ディクテーション方式がよい

アンケートを読んだ時に一番多かった意見は、一課の中に出てくる漢字の量が少ないということであった（この夏のコースでは一週間に二課、つまり一週間に約22～25ぐらいの新出漢字を習った）。その他、少数意見ではあるが、テキストに漢字や語彙の意味と読み方さえ書いてあれば、授業は必要ないというコメントもあった。また、習った漢字を忘れがちであるので、何らかの方法で今までの漢字を思い出させる復習の部分がほしいという意見もかなりあった。

【先生の反応】

1990年夏および秋のコースでこのテキストを使用した先生方のうちの何名かと尾崎が気付いたことを次にあげる。

マイナス評価	プラス評価
初級に適切でない読み方・語彙が出てくる 初級に適切な語彙がぬけている 例文が少ない 例がないのに音訓だけが紹介されていることがある	使いやすい 手書きによる提示はよい 一つの課の中の漢字に意味や形のつながりがある課は学生にとって覚えやすい テキストの本文（文法）との関連の

復習教材が充実していない
テキストの本文（文法）との関連のない語がでてくる課は学生にとって覚えにくいのではないか
一つの課の中の漢字に意味や形のつながりがないと学生にとって覚えにくいのではないか
ある語が出てくる課は学生にとって覚えやすい
漢字だけを学びたい学生にも適している（ある程度内容が独立しているため）
練習問題は毎課同じ形式なのでやりやすい

以上のような点をふまえて、次の今後の問題点を考えてみたい。

Ⅳ　今後の問題点

今後の問題点、改良すべき点などを次に箇条書きにしてあげる。

・音訓や熟語や文例の中に初級に適切でないものはないか、また適切でぬけているものはないかを調べる。
・漢字の基礎的な知識などをどのように盛り込むか。
・他の漢字辞典からコピーで補った部分をオリジナルのものに書き換える。
・当初の案にあった、発展練習的なもの、コラム的なものなどをどう盛り込むか。
・日常よく目にするサインの紹介や場面別の言葉の紹介などはどう扱うか。
・テキストの本文（文法・ドリルなど）や読解教材との関連はどうするか。
・復習教材はどのようなものをそろえるべきか。
・教授法は。（どこまでをテキストに盛り込み、どこからを授業で提示するか。）

学生の反応のところで問題になった漢字数については、全体数 400という枠が動かせないため変えることはできないが、学生がもの足りなさを感じないよう、授業の中で内容をふくらませていくことが肝要である。また、授業活動が単調になったり、学生が受け身になりすぎたりすることがないよう注意しなければならない。そして学生が授業にわざわざ来なくともいいのでは、と感じてしまうような、自分で調べてもわかる知識のみを伝達するような授業も避けなければならない。漢字は学生の個人差がはげしいので学生全員が一度に満足するような授業はなかなか困難だが、ひとりひとりの学生の問題点を把握して個々に対応できるようなきめの細かい指導を期待したい。（尾崎は授業中、学生に練習をさせている合い間などに、

できるだけ個々の学生と直接話をするように心掛けている。その時にその学生の問題点等を指摘したり、よい点をほめたりしている。参考までに。）

ここまでが初級用教材の漢字篇の作成経過報告である。ここで明らかになった種々の問題点、改良すべき点は今後の課題として早急に解決して行ければ、と思う。

【注】

（１）　拙稿「基本漢字の試み」（『ＩＣＵ日本語教育研究センター紀要』第１号 1991、所収）参照。

（２）　① Matsuo Soga/Michiko Yusa "BASIC KANJI 英文 基礎漢字" 大修館書店　1989

② Richard Scarry "BEST WORD BOOK EVER" A Golden Book, New York, 1980

の２冊からコピーを取った。

（３）　久米 公 編著 『学習指導要領準拠 新版漢字指導の手引き』（教育出版　1989）を参考にした。

（４）　林 四郎 他編『例解新国語辞典』（三省堂　1984）他参照。

（５）　前掲本（３）を参考にした。

（６）　前掲本（２）の ① を使用。

V　資料（教材例）

A　漢字リスト　（400字）

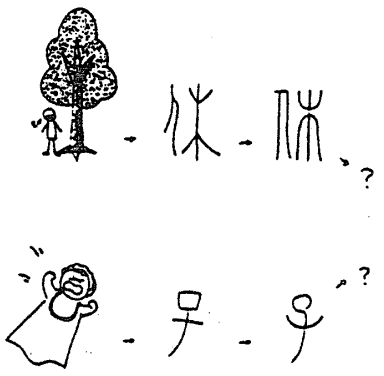
第０課	漢数字	一二三四五六七八九十
第１課	教科書の漢字	大学先生日本人文山川下上小
第２課	時間、金額	今時半年円月火水木金土百千万
第３課	動詞 ①	行来見書食飲言読語立会社
第４課	教科書の漢字	買売聞間店物毎東京何屋私
第５課	形容（動）詞 ①	高安明新古多少親切天気
第６課	教科書の漢字	雨電話白黒花英交番号地同
第７課	教科書の漢字	週末音楽好旅料理活予定
第８課	教科書の漢字	休子字朝昼夕晩曜勉強世界
第９課	場所 ①	午前後左右中自分計近所部
第１０課	□を使った漢字	口品名台兄回国図田男魚車
第１１課	教科書の漢字	用全便利不由事軽出病痛元
第１２課	部首 ①	体作使住仕働借化価持打
第１３課	部首 ②	道通運送進返遠遊達門開閉問
第１４課	部首 ③	家空室宿実寒紙練終線絵約
第１５課	部首 ④	心思忘感意悪急員貸女始姉妹
第１６課	体に関係ある字	身目耳顔頭首毛手足歩走洋服着
第１７課	形の難しい字 ①	友受取最冬夏変降夜教政数
第１８課	形の難しい字 ②	長良表以起記配引弱弟発
第１９課	形の似ている字 ①	待特止正方力内肉知和者考
第２０課	形の似ている字 ②	入父母科薬願牛貝馬鳥島
第２１課	「月～土」を部首にした字	期点海洗注油林森銀鉄場堂
第２２課	部首「日」、自然の漢字	早映春晴暗風雪石野竹秋米
第２３課	場所 ②	都市区町村南西北駅寺館局
第２４課	場所 ③、動詞 ②	校公園外路助伝相談困折招
第２５課	動詞 ③	動帰決合答死残集乗比習覚
第２６課	形容詞 ②	太低短広重暑美青赤黄茶色
第２７課	助数詞	第課度枚階才様写真画荷転
第２８課	学校生活	院留授欠席退卒業式試験
第２９課	専門分野	治経済営医法神育産農商工
第３０課	レポート、論文の漢字 ①	関係反対例種類面形研究
第３１課	レポート、論文の漢字 ②	専題性質味初次別主当
第３２課	レポート、論文の漢字 ③	現代過去未訳調説議論
第３３課	レポート、論文の漢字 ④	的客具必要完簡単難漢

B　課の扉

第 8 課

教科書で習った言葉を漢字で書いてみましょう。

We will practice writing in Kanji the words we learned in this lesson.



28

第 26 課

形容詞の漢字の２回目です。

Adjective Kanji, Part 1.

大きい ―― 小さい
高い ―― 安い
　　 ―― 低い
明るい ―― 暗い
新しい ―― 古い
多い ―― 少ない
長い ―― 短い
重い ―― 軽い
暑い ―― 寒い
広い ―― 狭い
太い ―― 細い

82

第 27 課

助数詞などの接尾辞やその他身近な言葉の漢字を習いましょう。助数詞のおさらいもしましょう。

We will study Kanji used as counters and other suffixes. Review counters as you study.

85

第 29 課

あなたの専門は何ですか。専門分野を表す漢字を習いましょう。

What is your major? We will study Kanji related to major fields of study.

― 今までに習った字を使って ―

文学　言語学　英語学
日本語学　薬学　化学
数学　物理学　生物学
力学　天文学　考古学
社会学　心理学　音楽

91

C　漢字表

L.6

雨	ウ	
	あめ	雨が降(ふ)ります。
一 ㇀ 冂	而 而 而 而	雨
電	デン	電気　電話(でんわ)　電車(でんしゃ)
一 ㇀ 冂	而 而 而 而	雨 雨 雨 雪 雪 電
話	ワ	電話　会話
	はな(す) はなし	話します
丶 亠 言	言 言 言 言	言 言 言 言 訪 話
白	ハク	
	しろ、しろ(い)	白いです　白黒(くろ)
丿 冂 冂	白 白	
黒	コク	黒板(ばん)
	くろ、くろ(い)	黒いです　白黒
丨 冂 冂	日 甲 甲 里	里 里 黒 黒
花	カ	
	はな	花屋で花を買いました。
一 十 艹	艹 艹 花 花	
英	エイ	英語
一 十 艹	艹 艹 苩 英	英

Beware of similar Kanji.

買 ----- 見

聞 ----- 間

写 — one stroke — 考

第 — one stroke — 強 弟

日 + 月 --------- 明

立 + 木 + 斤 -- 新

小 + ノ --------- 少

立 + 木 + 見 -- 親

反 --- 友

類 — 頭 — 願 — 顔

形 — 研 — 開

究 — 空

種 — 働 — 動 — 重

例 — 残

練習問題(れんしゅうもんだい)　EXERCISES

I　Write the reading of the following Kanji in Hiragana.

1. 現代の日本語について調査(さ)する。　2. 未来

3. 過去　4. 去年は一年間、外国で過ごしました。

5. 国際(さい)会議の通訳をしています。　6. 説明してください。

7. 先生に質問する前に辞(じ)書で調べましょう。　8. 小説

9. 議論する　10. 現在(ざい)、論文を書いています。　11. 表現

II　Write the underlined parts in Kanji (and Hiragana, if necessary).

1. げんだいの にほんごを しらべて、ろんぶんを かきました。

2. せんもんは じんるいがくですが、ちょうさをするのは ほんとうに たいへんです。　3. かこのことは わすれて、あたらしい みらいを つくりましょう。　4. きょねんから こくさいかいぎの つうやくを はじめました。　5. なつは にほんで すごすつもりです。

6. きょうじゅの せつめいを きいてから、がくせいが ぎろんしました。

7. えいごの しょうせつを ドイツごに やくしました。　8. ひょうげん

F　読みの練習

L.17　かんじ復習　　読んでください。

1. きのうの晩友達と六本木で遊びました。

2. きのうおかあさんからの手紙を受け取りました。
実は少しホームシックになりました。

3. 実は最近毎朝頭が痛いんです。どうしたんでしょうか。

4. 日本の冬は二月が最も寒いんですよ。夏はよく天気が変わります。雨が降ったり、かみなりがなったりします。

5. 今夜はひまですか。ぼくと日本語でテートしませんか。

6. 大学の中で八百屋を降りてください。近くに教会があります。教会の後ろの道を通って三分ぐらい歩いてください。そこに私の家があります。

7. 夜は会社員に英語を教えています。大変楽しいです。

8. 大学一年生の時、数学を勉強するつもりでしたが、今は政治を勉強しているんです。

9. この夏に日本語の授業を受けに学生は何人ですか。教えてください。